

令和6年度 東京の農業振興に向けた専門懇談会（第1回）

次第

日 時 : 令和6年7月29日（月）
15時30分～17時30分
場 所 : 都庁第一本庁舎7階大会議室

1 開会

2 知事挨拶

3 出席者紹介

4 議事

（1）プレゼンターによる発表

Oishii Farm 共同創業者 兼 CEO 古賀 大貴氏

（2）質疑応答

（3）意見交換

議題 東京の農業振興に向けた振興施策等について

（4）その他

5 閉会

東京の農業振興に向けた専門懇談会 委員名簿

(五十音順・敬称略)

所属等	氏 名
川里農園 代表	かわさと あきら 川里 章
株式会社三菱総合研究所 主席研究員 九州大学未来社会デザイン統括本部 ディレクター・客員教授 新潟食料農業大学 客員教授	きづき せいいち 木附 誠一
社会保険労務士法人リライアンス 代表	すずき やすこ 鈴木 泰子
三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング 公共経営・地域政策部 主任研究員	ふくつか ゆうこ 福塚 祐子
株式会社山口トマト農場 代表取締役	やまぐち たく 山口 卓

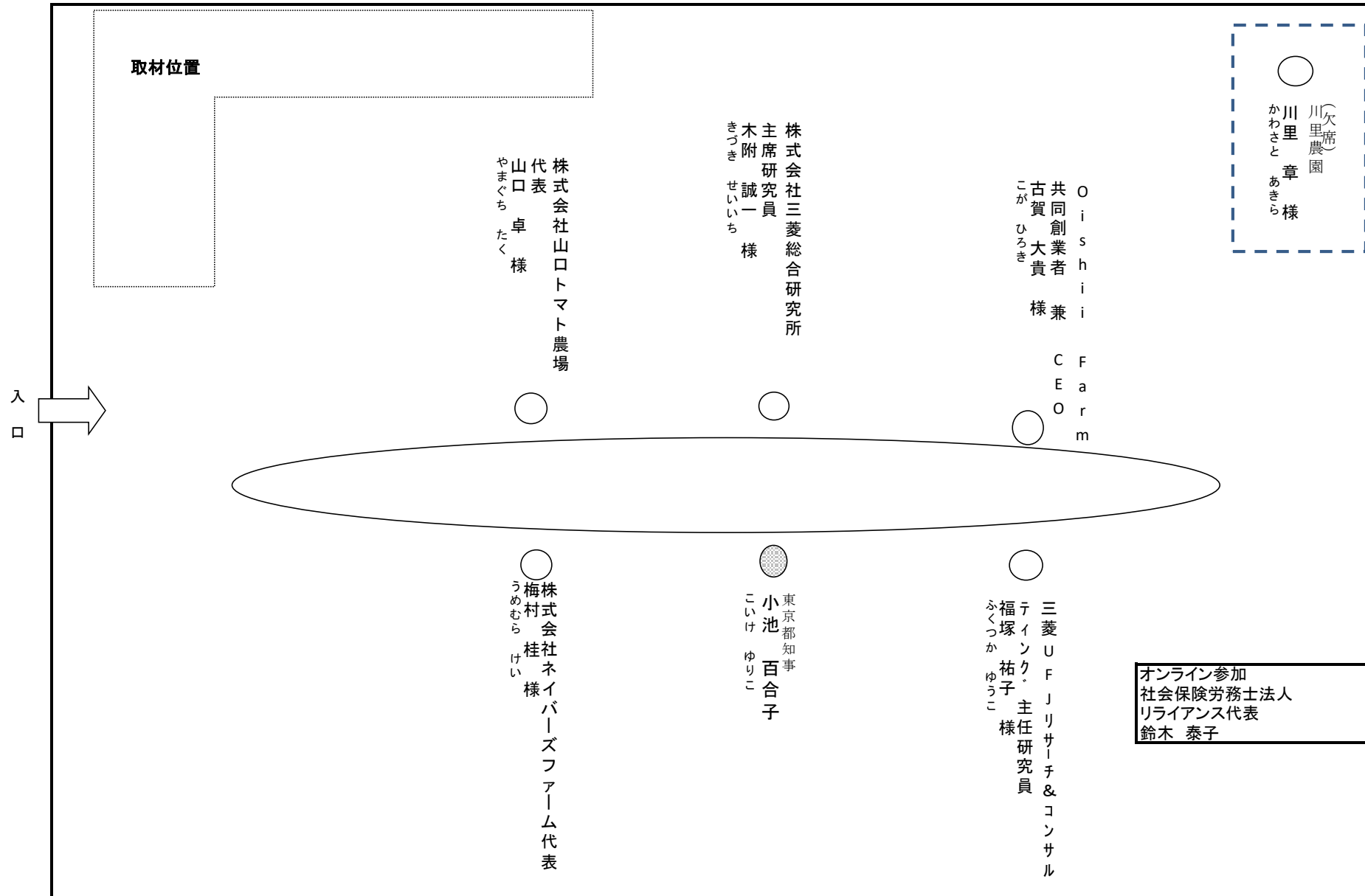
東京の農業振興に向けた専門懇談会 オブザーバー

所属等	氏 名
株式会社ネイバーズファーム 代表取締役	うめむら けい 梅村 桂

東京の農業振興に向けた専門懇談会 プレゼンター（基調講演）

所属等	氏 名
Oishii Farm 共同創業者 兼 CEO	こ が ひろき 古賀 大貴

東京の農業振興に向けた専門懇談会(第1回) 座席表



令和6年度 東京の農業振興に向けた専門懇談会 (第1回)

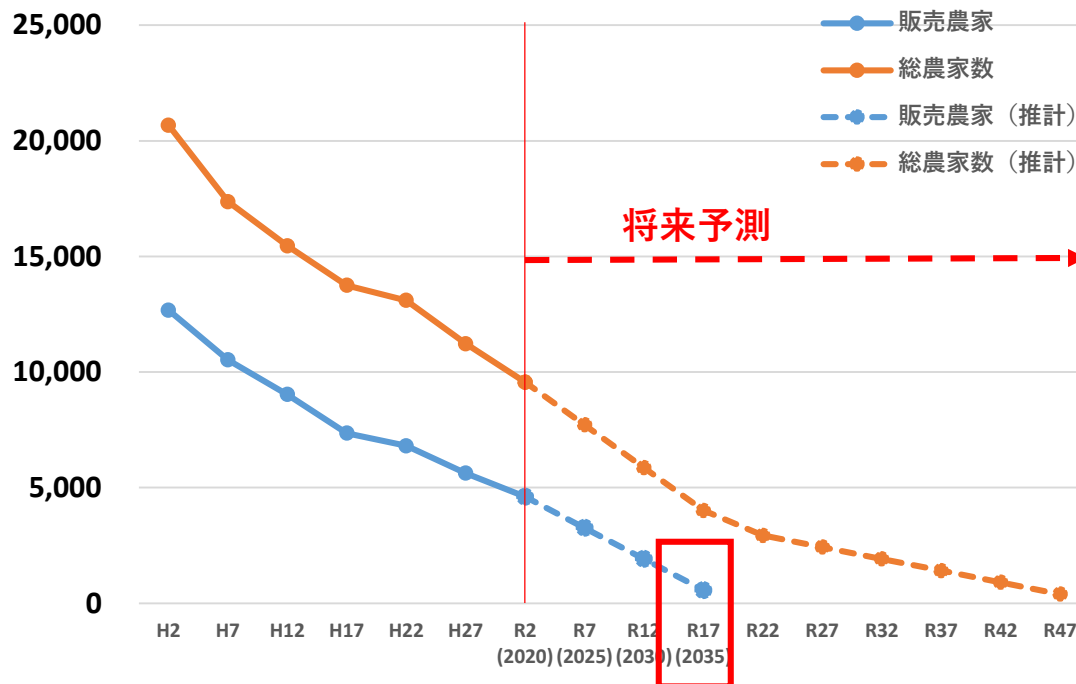
東京農業の現状・課題

東京農業の現状と課題 減少を続ける農業者数

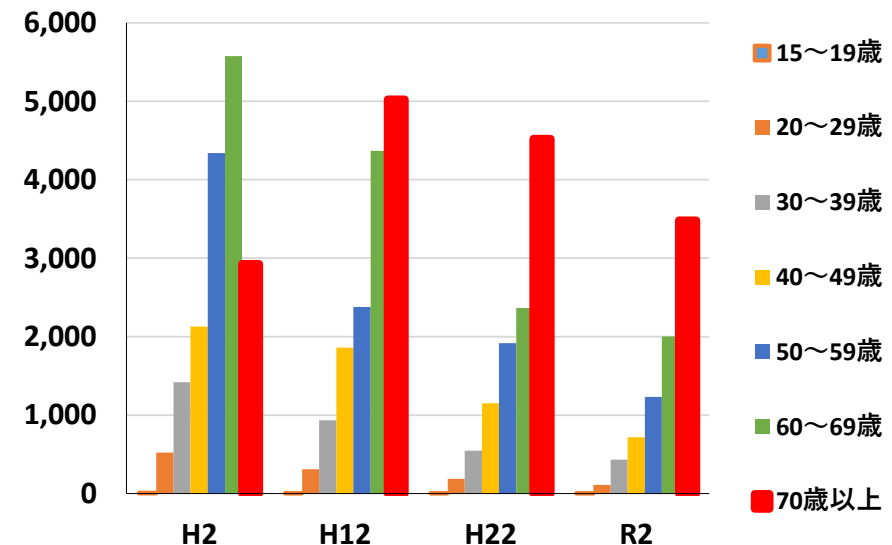
【現状】

- 総農家数は令和2年、調査開始以来初めて1万戸を割り込む
- 70歳以上の農業者の割合が大きく、減少速度は急速に進む可能性

農家数の推移



年代別基幹的農業従事者数推移



【課題】

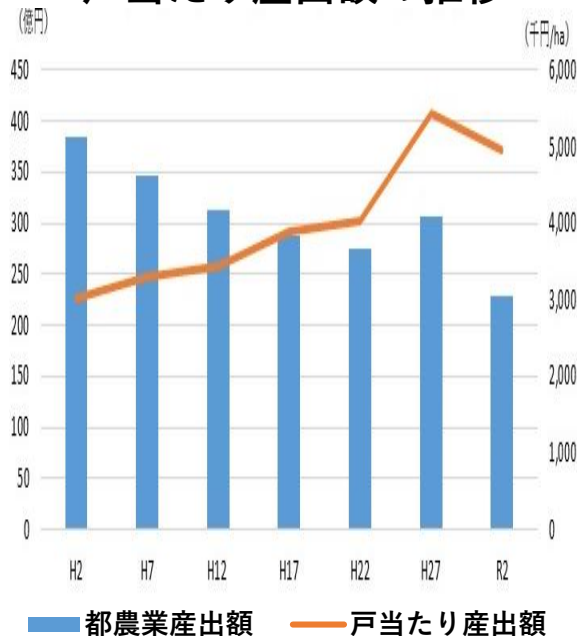
- 後継者、農外など多方面からの新規就農者を確保
- 離農を防ぐ、働きやすい農業環境の実現
- 雇用就農や半農半Xなど、農業への多様な参画を促進

東京農業の現状と課題 減少する産出額と上がらない販売単価

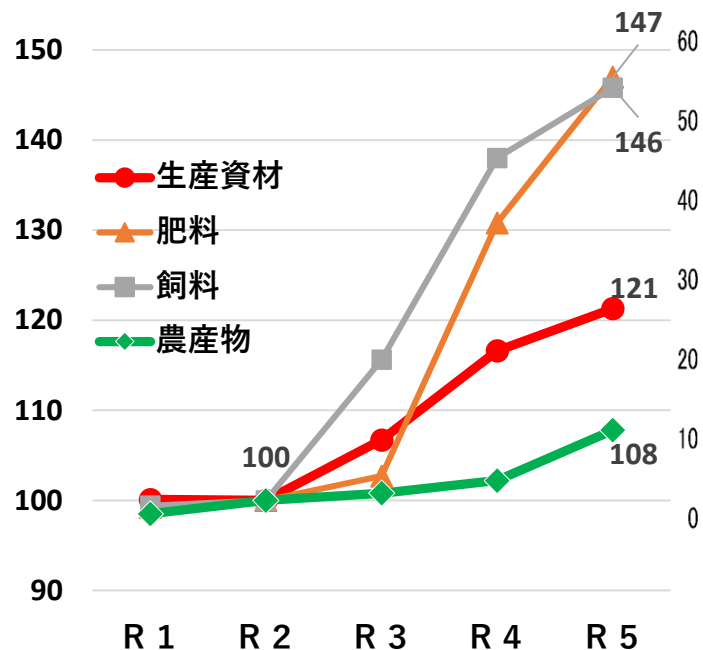
【現状】

- 東京の農業生産額は減少傾向にある一方、農家 1 戸当たりの産出額は上昇傾向
- 農業の生産資材や肥料、資料の高騰が続いている
- 農業者は販売単価への反映ができていない

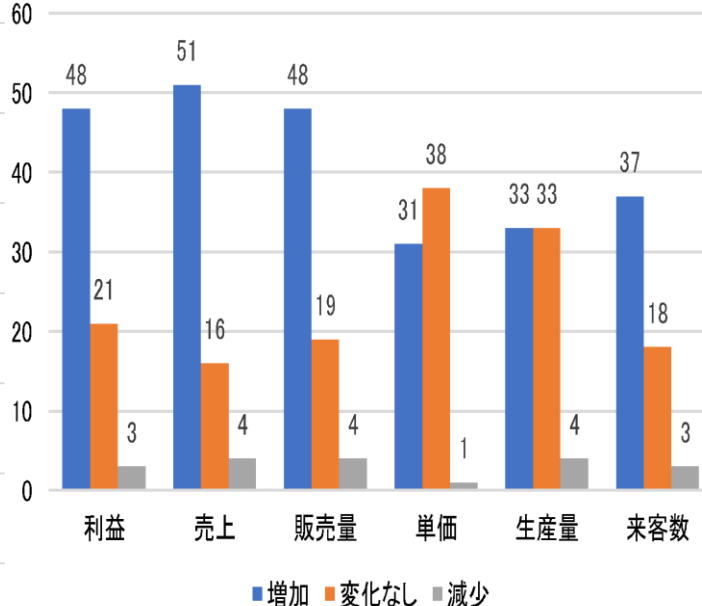
東京農業産出額と戸当たり産出額の推移



農業物価の推移 (R 2 基準)



支援事業活用前後での経営内容の変化 (回答数)



【課題】

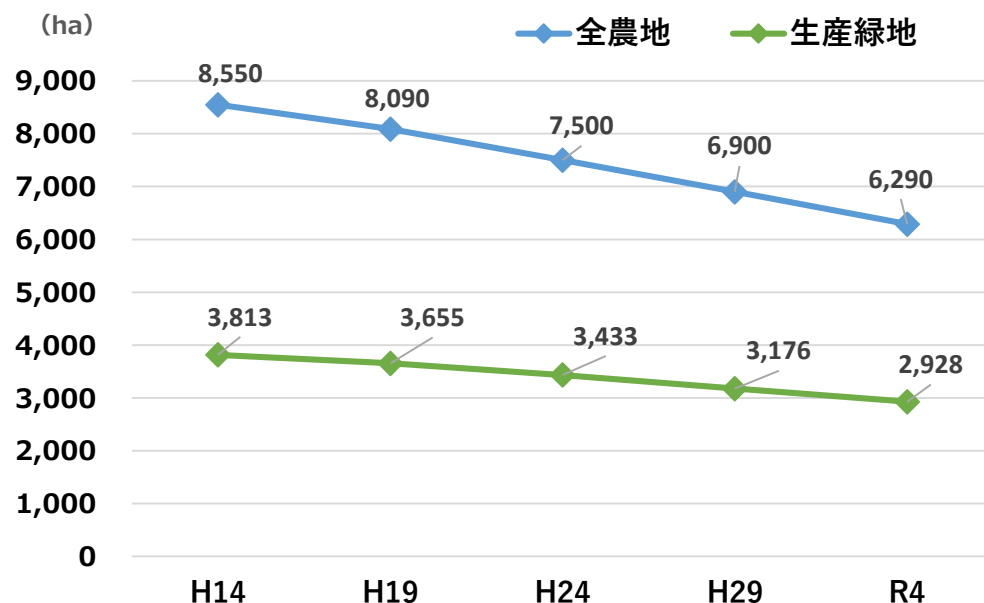
- 稼ぐ農業者がより稼げる環境づくり
- 資材価格が高止まりする環境下での持続可能な農業経営への転換
- 高単価での販売につながる農業経営を支援

東京農業の現状と課題 止まらない農地の減少

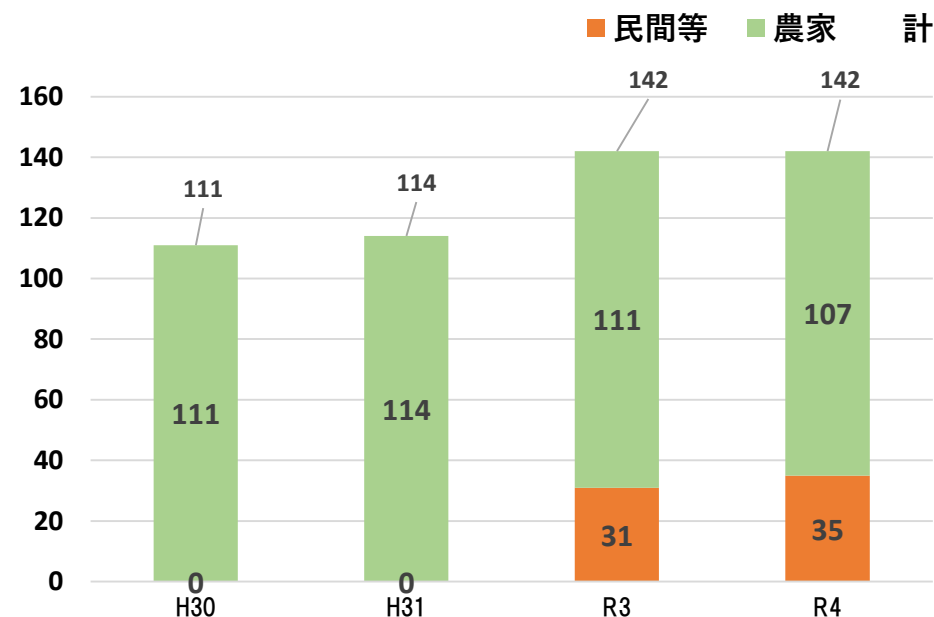
【現状】

- 農業生産はもとより防災や教育など、農地がもつ多面的な機能は都民にとって貴重な財産
- 令和4年の農地面積6,290ha、相続等で毎年約100haの農地消失
- 多面的機能を最大限に発揮する農業体験農園の数は伸び悩んでいる

農地面積の推移



開設主体別の都内農業体験農園数



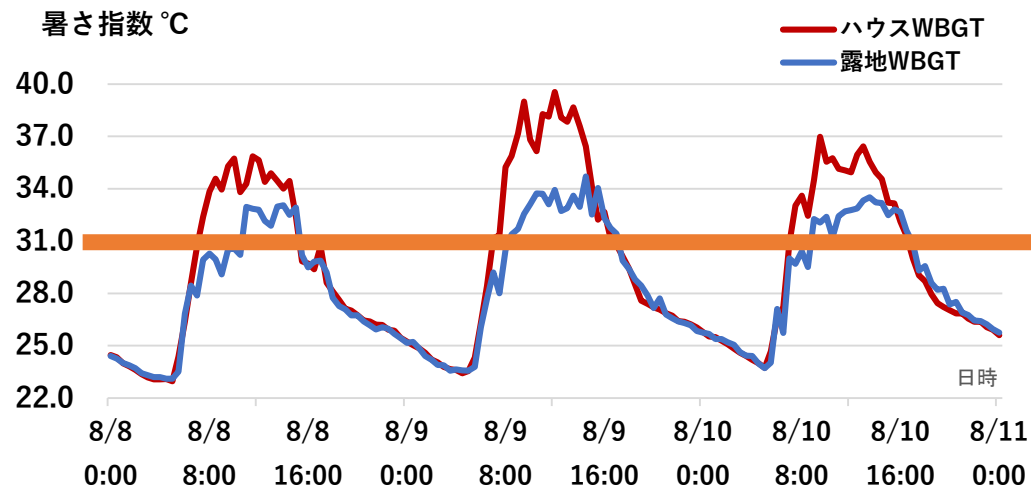
- ## 【課題】
- 貸借を一層促進し、新規就農者や後継者、規模拡大を図る農業者への農地確保
 - 多面的機能を発揮する農業体験農園などの取組を促進

東京農業の現状と課題 求められる働き方改革

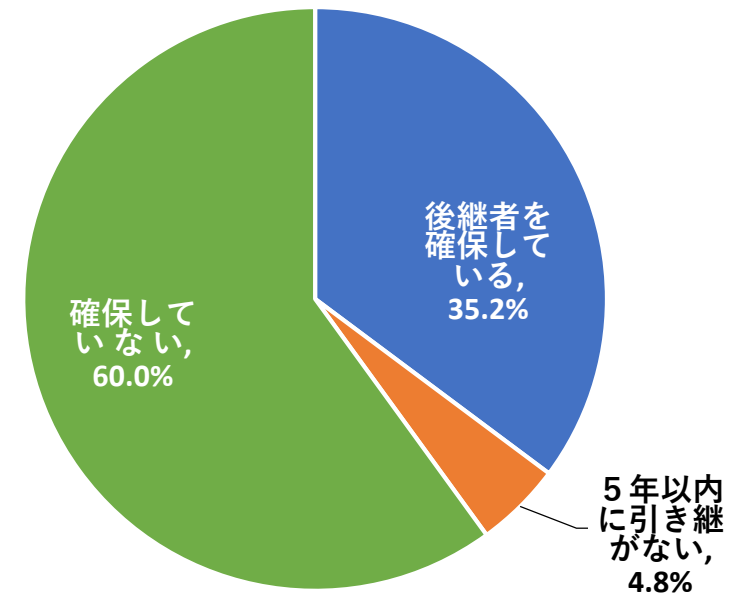
【現状】

- 地球沸騰ともいわれる猛暑にあって、ビニールハウス内の気温は危険な温度に
- 過酷な労働環境は後継者の確保にも影響している可能性

ハウス・露地における暑さ指数の推移 (8月8日～10日)



5年以内の後継者の確保状況別経営体数



【課題】

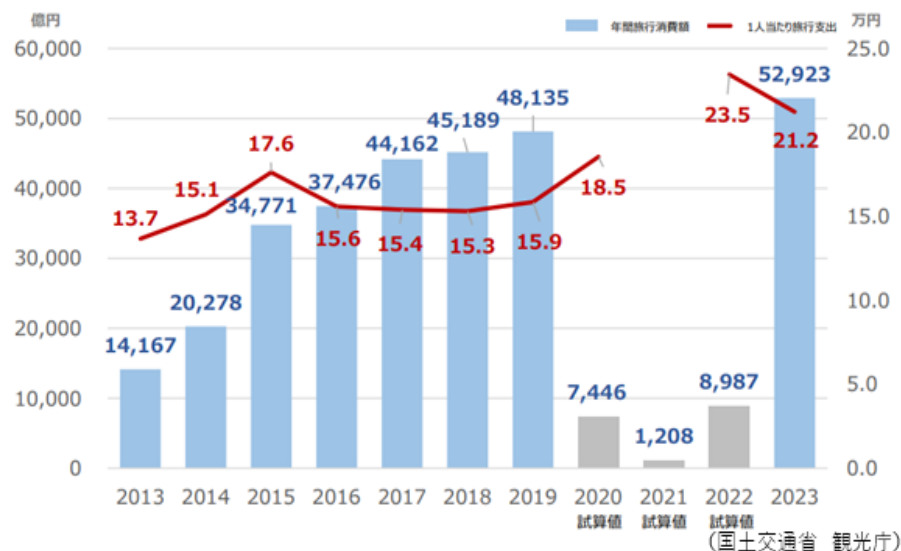
- 農作業現場での熱中症対策の促進
- 農家の子息・息女が働きたいと思う環境の整備
- 働き方の改善と経営の効率化が両立する農業の実現

東京農業の現状と課題 プロモーション、環境配慮

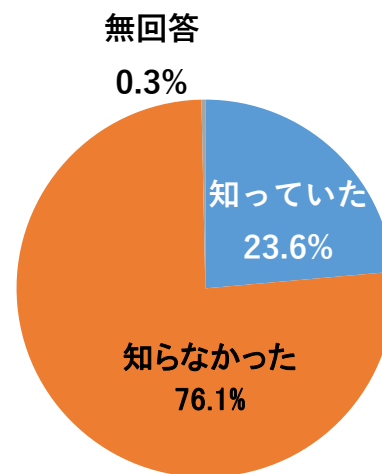
【現状】

- 円安を背景に訪日外国人の旅行消費額は過去最高だが、東京産農産物のP Rは不足
- 消費者は環境保全型農業への関心が高いが、エコ農産物やGAP認証の認知度は低い

年間の訪日旅行消費額推移

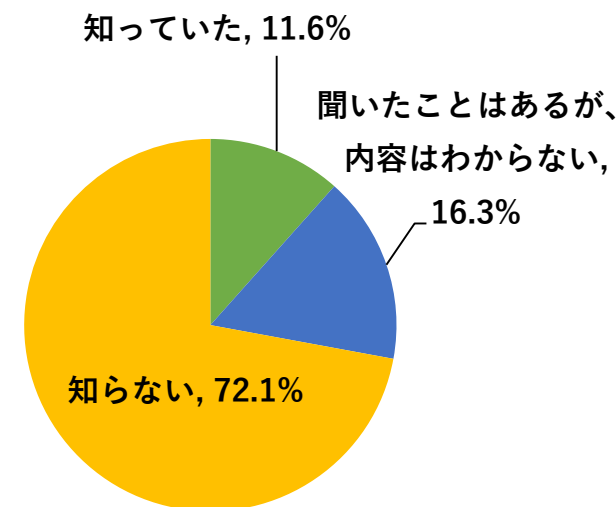


東京都エコ農産物の認知度



(R4委託調査アンケート)

GAPの認知度



(令和2年農林水産統計)

【課題】

- インバウンド需要に対応した東京産食材の提供、P R強化
- エコ農産物やGAP認証の価値を消費者に伝え、認証取得の機運を醸成